

4-P-16

大学生の口腔機能と食生活習慣との関連性に関する検討

金久弥生¹⁾ 2)

三分一恵里²⁾ 東 麻夢可¹⁾ 西村瑠美³⁾ 瀧 清華¹⁾ 原 久美子¹⁾

【背景】乳幼児期からの口腔機能の成長発達・育成状態や高齢者の機能低下が、食生活習慣に影響を及ぼす可能性があることはこれまでの研究成果により明らかとなっている。しかし、心身状態に大きな問題はなく日常生活を過ごしている大学生が備える口腔機能・口腔環境と食習慣や食生活が相互にどのような関連性を持つかに関する検討は行われていない。本研究調査は、大学進学に伴う日常生活リズムの変化と食習慣と食生活、口腔機能の関連性の検討や大学生の健康増進および幼児期からの口腔機能の育成・高齢者の機能維持改善に寄与するための基礎研究になると考える。

【目的】本研究の目的は、大学生の口腔機能と食生活習慣との関連性における相互関連性の検討・構築とする。

【方法】口腔保健学科 2016 年度生のうち本研究協力に同意の得られた 63 名に対し、(1) 口腔機能の測定、(2) 口腔環境の状態、(3) 日常生活における食習慣や食生活に関する調査を実施した。

【分析・検討内容】調査結果をもとに、大学生の食生活習慣と口腔機能の関連や相互関連性を検討した結果を報告する。

1) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 2) 明海大学保健医療学部口腔保健学科設置準備室

3) 広島大学広島大学大学院医歯薬保健学研究科口腔健康科学講座口腔保健疫学